

書籍紹介

この卵を産んだのは誰・・・??
そんな疑問に答えてくれる本が出ました!



虫の卵をじっくりと眺めてみたことはありませんか? 長野は自然が豊かなので虫自体を見る機会はとて多いはずですが、「虫の卵」といったら如何ですか? 虫たちの卵は母虫によって巧妙に隠され、サイズも0.1ミリからせいぜい3、4ミリですから、じっくりと観察してみたことがあるという方はとても少ないのではないのでしょうか。めったに目にする機会のない虫たちの卵ですが、拡大して見てみるとその表面は肉眼ではわからないような精緻な細工が施されていて、とても美しい形をしています。

今回紹介するのはそんな虫の卵を広くまとめた1冊、鈴木知之さんの「虫の卵ハンドブック」です。カブトムシやアゲハチョウなどの有名な昆虫の卵から、シロアリやウスバカゲロウなどまず見る機会がない卵まで、約270種類の昆虫の卵や産卵の様子などが幅広く掲載されています。また、原寸大の卵の一覧や虫の卵が見つかる植物についてもまとめられています。ハンドブックの名の通り携帯しやすいサイズなので、野外での自然観察にも活用できるおススメの一冊です。(真下雄太)

「虫の卵ハンドブック」鈴木知之 著
文一総合出版 定価1680円

読者からのお便り

我が家は中之条でも昔からの地域で家が密集している場所ですが、庭には毎年山鳩が営巣したり小鳥が多く来ます。ある日、家のガラス戸に何かぶつかった音がしました。行ってみるとガラス戸のレールの上に雀と鳩の中間ぐらいの大きさの鳥がいました。初めて見る鳥でした。小鳥の名前を教えてください。(上田市 中沢あつこさん)

お問い合わせ頂いた鳥は「スズメ目ツグミ科ツグミ」です。冬鳥でシベリアから渡ってきます。(つぐむ) から来たと言われています。時々渡りの前に発情してしまい、さえずるのがいる事もあります。とても良い声なので聞いてみてください。家の側でも良く見かける鳥ですので、見かけたら観察してみてください。



写真: 中沢あつ子さん

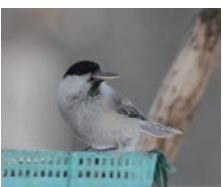
こんなものを見つけました!

野鳥編

写真を整理していたら見つけました。最初、なんだコガラかと思っていたのですが、じっくり写真を見ていたら、遠目にはクチバシだと見えていたのがコガラがくわえたヒマワリの種でした。

我ながら、いい瞬間を切り取れたと、自画自賛です。

(菅平実験センターナチュラリスト 片岡長子)



催しもの案内

植物は私達の暮らしを支え、地球の生き物の土台となっています。そんな植物の大切さを世界のみんなで考える「国際植物の日 Fascination of Plants Day」のイベントとして、筑波大学菅平高原センターでは「来て見て発見! 多種多様な植物」を開催し、自然観察会や講演会を行います。

詳細案内: www.sugadaira.tsukuba.ac.jp/plantday13/

- ①日時 平成25年5月19日(日) 午前9時30分受付 開始午前10時 終了午後4時(変更の可能性有)
- ②申込受付 4月22日(月)～4月26日(金)
- ③申込受付時間 午前9時～午後4時30分
- ④定員 100名
- ⑤参加費 無料 保険料30円
- ⑥雨天開催(内容一部変更有)
- ⑦問合せ・受付
- 電子メール ikimono@sugadaira.tsukuba.ac.jp
- FAX 0268-174-2016
- TEL 0268-174-2002

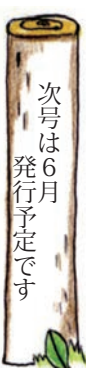
担当: 佐藤

*電子メールかファックスでの申込みをお願いします。どちらもお持ちでない方は電話で申し込みください。

*ファックス・電子メールでお申し込みの際は、参加者全員の氏名と代表者の住所・電話番号・ファックス番号をご記入ください。

*お申込みいただいた方には詳細をお送りします。

本通信の印刷・配布は、東郷堂さんにご協力いただいています。



次号は6月 発行予定です